



府中地区保護司会だより

第56号

発行 府中地区保護司会 会長 朝倉俊夫



「府中市郷土の森博物館」
写真提供 西谷照代

保護司会活動

副会長 原 田 勝 彦



昨年度より府中地区保護司会の副会長を務めさせて頂いています。関係各位の皆様方には、日々保護司会活動にご理解、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

本年度後半は宮城刑務所の宿泊研修会、第7ブロック保護司組織運営連絡協議会、公開講演会と多くの事業が行われました。その中で多くの保護司会のメンバーは現役で仕事もし、時間を上手に使い保護司というボランティア活動を行っています。しかし以前現役の保護司が対象者との面接時に自宅で殺害されるという重く辛い事件が報道され同じ保護司として私の面接はと考えさせられました。この様なことが二度と起こらないことを願い心よりご冥福をお祈り申し上げます。

保護司制度の歴史は70年以上になりました。安全で安心な地域のためには更生保護の重要性がとても必要だと思っています。保護司と対象者は、お互いに理解し合い話し合いを重ねて信頼関係を築き上げられるものと私は考えます。社会復帰への道を確実に歩んで行けるよう、話し合っ進めていきたいです。しかし最近私たちの周りでは、人間関係の希薄化、世の中の利便性向上に伴い、孤独になっっている人が多く見られる傾向があります。孤立させずに地域の皆様とともに犯罪や非行に陥らないよう小さな事にも目を向け、小さいうちに解決策を考え実行し、関係機関と連携を取りながら安心して暮らせる地域を作りましょう。

令和六年度

第7ブロック保護司組織運営連絡協議会

地域活動部 古川 耕史

10月22日(火)昭島市の法務省矯正研修所で、令和六年度の第7ブロック保護司組織運営連絡協議会が、17市で構成される5地区の保護司会が会して開催された。

今年の協議会は「社会を明るくする運動について考える」でした。東保連からの説明には地域住民の認知度の低さや活動のマンネリ化などの問題提起があった。保護司会活動の根幹を成す協議会に、本質に迫るには議論時間が足りなかったため、現状を考察することで、将来、本質的な議論をする際の焦点や課題を明確にすることを目的とし、5回に亘る協議員会に於いて丁々発止の議論を経て当日を迎えた。

発表では府中地区の課題として①推進委員会の形式化②保護司の参加率が向上しない③中学校への働き掛けの難しさ④広報活動の効果が極めて低い、の4点を挙げた。各会ともに課題自体には大きな違いはなかつ



たが、府中地区における学校との連携委員会を通じた活動は、質問こそ出なかったものの座長がこれについての質問を促す問いかけをされたことから、他地区に例を見ない特筆すべき活動であることが解った。

発表後の講評で、府中地区の内容についての言及が幾つもあったのは今後の社明事業に向けて事前に良い議論ができたのだと思う。

保護司の安全確保に関する対策について

東京保護観察所 立川支部

保護観察官 齋藤 潤二

保護司の皆様が安心して安全に活動できる環境の整備に向けた対策については、可能なものから速やかに措置を講じることとされており、担当保護司の複数指名については、新規に開始する保護観察事件及び生活環境調整事件の指名時において複数指名の希望を聴取し、希望する場合には原則として複数指名を行います。さらに、保護観察官の直接処遇などの直接関与を強化し、担当保護司を指名している事案についても、その状況の変化や担当保護司の希望に応じ、保護観察官による直接関与を強化するほか、保護司の複数指名を実施するなどの対応を行ってまいります。

地域における保護司への相談支援を始めとする地域援助の取り組み強化については、保護司からの相談対応、面接への同席、支援機関・団体等との協議等を実施するなどの取組を積極的に行い、保護司相互で処遇

に関する相談・助言・協議等を行う枠組みとして、地域処遇会議の積極的活用を促進を図ることとし、主任官はその実施にあたり必要な情報提供や助言を行ってまいります。また、自宅以外の面接場所の確保については、保護観察所としても自治体に対して協力要請を行っているところですので、なお、アセスメントの充実化策及び保護観察付き全部猶予者の保護観察強化策の試行が始まり、動的再犯リスク評価ツールを導入し、定期的な評価や、保護観察付全部執行猶予者の保護観察開始時に保護観察官による直接処遇を実施する期間を設け、情報収集を強化するなどの新たな取り組みを試行することになりました。



人はみな、生かされて生きてゆく

令和六年度 公開講演会

「当事者が語る依存症の背景とそこからの回復」を終えて

地域活動部 坪井 真由美

令和6年12月4日(水)午後2時から、特定非営利法人ASK社会対策部ASK認定依存症予防教育アドバイザー風間 暁氏を迎え講演会が開かれた。

多いと言われている薬物依存からどう回復できたのか？興味あるテーマでの講演会となる。

「薬物乱用」は世界の多くの国々で大きな問題となっており、それによって引き起こされる社会的問題や健康問題はきわめて深刻だ。国内では受刑者の4人に一人は覚せい剤事犯で、規制薬物使用歴のある人は全国民の25%といわれている。再犯が

親しみやすい語り口で自分の生い立ちを話し始め、実母からの虐待、周りの大人の関わり方から、大人への不信感でいっばいになり薬物に依存していく。薬物を通じて信頼できる仲間とのつながり、楽しさに悪いことをしているという意識はなかったと話す。薬物依存は収まったが、手に入りやすいアルコール依存へと移行していく。依存症とは？「やめたくてもやめられない状態に陥ること」とある。講師の場合は物質への依存。死にたかったのに助かり、出会った医師は、否定的なことばかり始まり信頼できず。次に出会った医師が自分の気持ちを受容してくれたことにより、「この大人は信頼できるかも？」という気持ちが芽生える。妊娠したことをきっかけに、意識



講師：風間 暁氏



明るく楽しく

府中地区更生保護女性会

会計 林田 あゆみ

今年度の定期総会は、コロナ禍前の形態で実施致しました。役員改選年でもあり、奥田会長の「明るく、楽しく」の声掛けの下、新旧役員の引継ぎを終え、令和6年度の活動が始まりました。

行動制限が緩和され、研修部・地域活動部・広報部の各部活動に活気が戻ってきました。

研修部ではミニ集会・手芸・管外研修が企画され、会員の交流が生まれました。

地域活動部では学習会として、保坂昌代氏による「かけがえのない命」の講義があり、府中第九中学校の道徳授業参観と併せて、会員同士、改めて「命」について考えるきっかけになりました。

広報部は「府中更女だより」第29号を発行します。表紙の写真は、郷土かるたシリーズになっています。お楽しみください。

これからも更女らしさを大切に活動してまいります。ご協力よろしくお願い致します。



5年ぶりの宿泊研修会に9月24日、25日、総勢24名で宮城刑務所見学等に行ってきました。宮城刑務所は、無期懲役や刑の重い受刑者が多いところで、そのこともあり高齢者の数も多いとのことでした。刑務所の中を見学させていただき、受刑者の作業の場面は見るのができなく

宿泊研修会 宮城刑務所

総務部 真鍋 美一



残念でしたが、木工作業や裁縫作業の工場を見学し、最後に販売場所に行って出来上がった製品を購入しました。夜は懇親会があり、おいしい料理を食べながら大いに盛り上がりました。次の日は東日本大震災の被害を受けた地域の震災遺構仙台市立荒浜小学校とニッカウスキー仙台工場を訪問しました。案内の人によると、多くの住民が避難訓練をしていたがここに津波は来ないと思っ



震災遺構仙台市立荒浜小学校内

いた。そのため多くの犠牲者が出たそうです。ただ、40年前には大きな津波が来ていたそうで、このことを長く伝えていくことが大事なことだと感じました。ウイスキー工場では、創始者の竹鶴さんが、ウイスキーは人間でなく自然が作り出しているもので人は技術的援助をするという理念を持っていたことに感銘しました。このようにどの訪問先も自分にとって勉強になった研修でした。また、私は保護司を始めて間もないので、府中地区の保護司の皆さんのこともよく存じ上げずこの機会に交流が深められたこともとてもよかったと思っています。

府中警察だより

生活安全課少年第一係長

中村 研人



府中署では、管内の各学校と協力し、小学校高学年や中学生、高校生に対して、インターネットの正しい使い方について教室を実施しています。

特に、ウソの名前、年齢、趣味、写真などを使って別人のフリをし、悪い考えをもって近づく「なりすまし」の被害には、安易に相手を信じることは危険であり、絶対に個人情報をお教えたり、「会いたい」という誘いに乗ったりしないようにと注意しています。

令和5年7月には改正刑法が施行され、若年者に対する性犯罪を未然に防止するため、性犯罪に至る前の段階であっても16歳未満の者に対する、面会を要求する行為やわいせつな目的で面会する行為、性的な映像の送信を要求する行為が処罰対象となりました。

子どもたちには、インターネットを使用していて何かあった際には、すぐに信頼できる大人や警察に相談するよう伝えています。

中学校生活指導主任と保護司との懇談会

令和6年11月12日(木)午後4時から府中市立教育センターにて今回のテーマ「中学生の現状と真偽を見抜く力」SNS危うい詐欺への関わり」について講演後、グループ懇談会が行われました。



講師 府中警察署生活安全課
少年第1係 主任 伊藤芳之氏

学校との連携委員会委員

林 宏至

私たちが日々過ごしていく中で、少しずつ今までは何かが違うと感じることが、現代社会には多くなってきたような気がします。

世界全体の気候は温暖化へと進んでおり、また、異常気象などにより、我が国でも自然災害が猛威を振るっておりです。

『想定外?』

この言葉は近年では当たり前前の様に

聞かれたり、話されることが多くなつた言葉の一つでしょう。

また、連日のニュース報道や様々な情報の中でも、

『SNS』

『闇バイト』

この二つの言葉は現代社会の象徴的な言葉になってしまいました。

オーストラリアでは、16歳未満のSNS使用規制を国を挙げて取り組み始めました。

今日の懇談会の中でも、数年前に作成をされた府中版SNSルールがあると聞きましたが、内容的には現在の社会状況を踏まえての見直しが必要だとの指摘もありました。

府中市内の中学生の現状は、コロナ禍の影響もあるのでしょうかが不登校の児童数は各校多いようです。しかし、万引きなどの犯罪行為は見当たらないとの報告を聞きました。また生徒のスマホの保有率は、ほぼ

100%に近いとのことですので、スマホ一台あれば何でも出来大変便利ですが、使い方をひとつ間違えれば直ぐにでも犯罪に加担させられてしまいます。簡単にお金を稼げるからスマホで申し込み、そして抜け出せなくなってしまうのが『闇バイト』。『犯罪だとはわからなかった』でも、その結果が犯罪者です。

『学校・社会・地域が児童を教える育てる』とても大切なことです。しかし、何よりももっと大切なことは、各家庭で親が子供に対し、様々なことをひとつずつ大事に教えて行く。

本日の懇談会を通じて、

『家族の重要性』

改めて感じさせていただきました。



第74回
社会を明るく
する運動
作文コンテスト

今年度もたくさんの中学生の皆さんから作品が寄せられました。

次の作品が受賞の栄誉に輝きました。

☆佳作

府中市立府中第十中学校

二年 高嶋 七壬

題名「みんなで見よう眩しい社会」

また、学校によっては、学年ごみ授業で取り上げ、次の二校が50点以上の応募数で奨励賞を受賞しました。

・府中市立府中第七中学校
・府中市立府中第九中学校
皆さん、おめでとうございます。



令和六年度（秋）

受彰者

（敬称略）

府中地区保護司会

法務大臣表彰

市川 一徳
筒井 孝敏

全国保護司連盟理事長表彰

野口 良子
吉野 博文

関東地方更生保護委員会委員長表彰

森岡 潤家
市毛 彰

藤井 幸夫
前田 久美子

関東地方保護司連盟会長表彰

石塚 百合子

東京保護観察所長表彰

住崎 岩衛

東京都保護司会連合会会長表彰

坪井 真由美
柊 昌一

東京保護観察所長感謝状

内藤 祐治

家族功労

室 英治
加藤 千津子

十年

中込 八重子
森岡 潤家

二十年

市川 一徳
筒井 孝敏

令和六年度市民表彰

朝倉 俊夫
田中 節子
吉野 博文

府中地区更生保護女性会

関東地方更生保護委員会委員長感謝状
石川 二三代

東京保護観察所長感謝状

隆 ミワ子
東京更生保護女性連盟会長表彰
滝島 孝枝
澤 尚代

法務大臣表彰を受彰して



市川 一徳

このたびの受彰は、身に余る光栄であり、感謝とともに身の引き締る思いです。

令和6年11月27日の顕彰式典において天皇陛下おことば奉読をはじめ関係機関各位代表のお言葉を賜るなど盛大に開催され、式典を通して地域社会における保護司活動の重さを改めて実感しました。

平成16年に保護司を拝命以来、数々の対象者との出会いと経験をさせていただきました。今日まで活動

を続けて来られたのも関係機関の皆さまをはじめ、諸先輩方皆さまのご指導、ご支援のお陰と心より感謝申し上げます。

今後とも保護司活動を通して、安全で安心な明るい地域社会の実現に向けて、より一層尽力して参りますので、どうぞ変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



筒井 孝敏

このたび、東京更生保護事業関係者顕彰式典にて法務大臣表彰という名誉ある賞をいただき、誠に光栄に存じます。これまでの活動を振り返ると、地域の皆様や先輩保護司、関係機関の皆様の支えがなければ成し遂げられなかったことばかりであり、心より感謝申し上げます。保護司として、立ち直りを目指す方々と向き合い、努力や成長を見守る中で、人の可能性を実感し、大きなやりがいを感じてまいりました。今回の表彰を励みに、これからも初心を忘れず、地域社会と連携しながら再犯防止と立ち直り支援に全力を尽くしてまいります。引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

退任あいさつ



伊藤 敏春

あつという間に年月が経ち、退任挨拶の依頼が来た。保護司としての歳月、様々なことが思い浮かぶ中、多くの方々からご指導を賜り感謝しかありません。更生保護の立場から生まれ育った環境がそれぞれ違いのある人達と向き合い、語り合い、励まし、怒り、笑、時には目頭が熱くなり涙する。人生の奥深さを痛感した。この貴重な時間と経験が私の人生の宝物として残った。この機会を与えてくれたのが先輩や同僚保護司、部会で一致団結し常に向上心を持ち続けた仲間達、長い間お世話になり誠にありがとうございます。退任のご挨拶に代えさせていただきます。



野口 良子

私が担当した少年たちは幼い顔の子たちでした。私はおばちゃんのような気持ちになり話を聞いてあげるからと、決して否定せずジッと聞きました。その中で何か良いところを見つけたら誉めてあげながら、面接を重ねていくうちに笑顔になり挨拶ができて約束も守るようになりお互いに安心しました。保護司として彼らに期待したいことはそれからの人生で

す。反省や後悔の気持ちを糧として生きて欲しいと願っております。

最後に、皆様から多大なご指導ご鞭撻を頂き社会参加できた事に心からお礼を申し上げます。



赤塚 正坦

何かあつという間の任期であつたように思う。当初は面接終了後これで良かったのかと思うこと多々であつたが、経験を積むにつれ、保護司としての心構えが向上してゆき、結果すべての事が実は自分の為であつたと、今つくづく感じている。

面接の中でも印象に残っているのが薬物の若者が終了後に「本当にお世話になりました。沢山のために話、面白い話をありがとうございました。またいつの日にか相談に乗っていただくことがありましたら、是非お願い致します。」という丁寧な文字での手紙をもらった時は、涙が出そうでした。

自分は寺の住職なので、初めての面接で、帰る時は本堂の前で手を合わせて帰るよう言っていたが、以後全員が合掌の後帰宅していた。こういったのはあなたが等閑な者はいなかったように思う。

悲喜こももであつたが、ありがたい役をいただいたと感謝しております。

新任紹介



あおき かずお
青木 和男

（研修部）
令和6年12月1日付け



よつひ ひでなり
四井 秀成

（研修部）
令和6年12月22日付け



サポセン移転の経過と諸課題

サポーターセンター長
加藤 茂

昨年度はサポセン移転がスムーズに出来、また運営に対してご協力を頂きありがとうございました。事務所はコンパクトで多少以前より手狭ですが大変機能的なところとなりました。皆様にとってより良い活動の場・情報連携が出来るサポセンにして行きたいと思っています。

さて、本年、名称を「更生保護サポーターセンターふちゅう」に改称しました。サポーターセンター運営委員会の構成に付きましては、企画調整保護司28名、うち17名が運営委員を務め、また、今年度に限り、任期は1年とし役員体制は運営委員の互選による。運営委員会役員はセンター長・副センター長・総務・会計とし、必要に応じて運営委員会を開催し、会の運営について協議及び審議し、重要事項は理事会に諮っています。サポセン駐在については企画調整

保護司2名が、13時から16時の3時間駐在し、保護司会の運営及び各部・各会員に対するサポーター業務にあたります。

各専門部の活動に対するサポート業務は、

- ・総務部はサポセンを会場とする部会や諸会合の日程調整
- ・研修部は処遇協議や諸研修の企画
- ・地域活動部は関係機関との連携をして情報収集に努め会全体への提供

・広報部はサポセン情報や広報紙を活用し内外へ情報発信などとなっています。

今年度はサポセン運営・活動の移行期とし、移転後の運営を軌道に乗せることに取り組んでまいります。これから皆様から情報を頂き連携を取り速やかな行動がとれるようご協力をお願いします。

府中地区保護司会コラム②

不調に負けず、明るく前向きに生きる！

本部会計 三浦 智恵美

歳を重ね、体のどこかが痛むことがある。そういえば昔、亡き義母が「膝が痛い、肘が痛い、肩が痛い」と言っていたことを思い出す。その頃、若かった私は、子育ての忙しさもあり「また言っている…痛いところを探しているのだろうか…」などと思っていた。だが今は、あの時義母は本当に痛かったんだろうと思う。「大丈夫ですか?」いたわりの言葉をかけなかったことを悔やむ。そして写真の義母に向かってごめんなさいと呟く。

東京パラリンピックに続きパリパラリンピックにおいて、日本人選手過去最高年齢で金メダルを獲得した自転車競技の杉浦佳子選手。「最年少記録って二度とつukれないけれど、最年長記録ってまだつukれますよね」53歳になっても、なお挑戦を続ける。なんてすばらしいんだろう。これから歳を重ね、体の不調は出てくるだろうが杉浦選手のように果敢に挑むことや明るく前向きに生きること、見習いたいと思う。

福祉まつりに参加して

広報部

隆 ミワ子

府中地区BBS会

会長 岩崎 弘治

令和6年10月6日(日)府中市制施行70周年記念・第44回福祉まつりが開催され、けやき並木通り&府中駅南口ペDESTリアンデッキに88団体がテントを張り、大勢の来場者により各団体がPR活動を行いました。府中地区保護司会は、広報部作成のパネルを展示。時間毎に担当者を決め、テント前を通る方々に声をかけ、法務省チラシ「生きる力 支える力」を手渡ししながら、社明運動への理解を促し、「ホゴちゃんぬりえ」や「社明ビスケット」は、用意した全部をお子さん達に渡すことが出来ました。親子の会話にホゴちゃんが登場すれば理解が一步進むかもしれません。府中刑務所の受刑者が作成した陶器をプレゼントする手伝いもしました。返礼としてのメッセージは受刑者への励ましになるとのことでした。ヤングケアラーを支援する方からの声掛けもあり、充実したPR活動の一日でした。

早春の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。府中地区保護司会の皆様におかれましては、日頃より格別のお引き立てを賜り、心より感謝いたします。おかげさまで、BBS会も節目の5年目を迎えています。今となつてはだいぶ昔のことのようですが、創設当時はコロナの蔓延が私たちの暮らしを大きく揺るがしていました。未曾有の事態もかつてほどの勢いを失いましたが、その過程で社会が以前と変わったことは否めません。「人との距離をとる」が新たなスタンダードになった社会で、孤立や孤独といった問題に取り組む必要性はますます大きくなっています。非行少年の数は昨今減少傾向にありますが、根本にある問題が解決されたわけではありません。BBSの活動も形は変われど、その本質を見失わぬよう今後も謙虚に励んで参りたい所存です。

活動日誌抄

- 9月
 - ・多摩連常任理事会・懇親会
 - ・むさし府中青年会議所55周年記念事業
 - ・薬物乱用防止推進地区協議会
 - ・連絡会及び研修会
- 10月
 - ・第44回福祉まつり
 - ・東京首長・議員保護司総会
 - ・第6ブロック保護司組織
 - ・第7ブロック保護司組織
 - ・運営連絡協議会
 - ・府中刑務所文化祭
 - ・府中市制施行70周年記念
 - ・府中刑務所運動会(中止)
 - ・府中市福祉協議会・懇親会
 - ・多摩連各支部(研修・総務)
 - ・府中市社会福祉協議会理事会
 - ・東京更生保護事業関係者顕彰式典
- 12月
 - ・多摩連受賞祝賀会
 - ・東京保護司代表協議会
 - ・府中市福祉のまちづくり審議会
 - ・多摩連常任理事会・懇親会
- 1月
 - ・新年賀詞交歓会
 - ・東保連合同互礼会
 - ・多摩連自主研修会
- 2月
 - ・多摩連保護司全体研修会

編集後記

市毛 彰

新型コロナウイルス感染症が日本で拡大した第一波の2020年4月に私は新型コロナウイルスに感染し、市内で5番目の感染者として27日間隔離病棟に入院し、自宅での隔離生活も含め約2カ月限られた空間での生活をするようになりました。当時一番怖かったのは、新型コロナウイルスではなく感染者への人の対応でした。体調を心配してくれる人がいる反面、私が社会的に弱い立場になると責め立てる人が多くいました。そんな異常な時から5年が経過し、ようやく社会が感染症経験者を責めることがなくなるような社会になりました。

こうした経験をしたからこそ、人への思いやりや人との絆をつくる活動は大切だと思います。更生保護活動を通じてどんな人でも暮らしやすい環境を作ること尽力したいと思っています。

広報部

部長	奈良崎芳恵	佐藤 政利
副部長	若松 正子	隆 ミワ子
書記	田中 節子	中込八重子
会計	市川 勉	市毛 彰
部員	赤塚 正坦	柊 晶一
	吉野 博文	市橋 正造

題字は高野市長の揮毫によるものです